

# グローバル社会を生きる 21の言葉

「小さくても異文化体験を積み重ねることが、世界と共に生きるという思いに結び付けばと考えています」(千種高校 大宮秀樹)

「どの国の人にも受け入れられるようなスタンダードは存在しないことに気がきました」(本多機工ヤシ・クラウスニツア)

「一つしかない結論をみんなで探すのではなく、複数の可能性を出し合い、結論を創り出すことが必要」(本多機工 本多宗之)

「心の壁は、コミュニケーションを重ね、相手の心をノックし続けなければ取り払われません」(BUNACO 大和田まりあ)

「通りすがりの雑談と、生活の一部を共にするのは、求められるコミュニケーションの質が違います」(直島町観光協会 奥田俊彦)

「日本人の良さである誠実さや勤勉さを強みにして、さまざまな国の人とかかわることが大切になると思います」(SEEDS Asia 中川裕子)

「自分と違う価値観の人がいることを面白いと思える大人に育ってほしい」(西保見小学校 幸田隆)

「Plan globally, act locally」こそがグローバルな最適経営です」(パナソニック エクセルインターナショナル 水野茂)

「英語はあくまでもツールです。まずは日本語でアウトプットする力がなくては話になりません」(時習館高校)

「世界の人々が互いのバックグラウンドを尊重した上で、意見や利害をぶつけながら共通の価値観を築くことが大切です」(高山西高校)

「広い視点から一つの問題にアプローチし、解決に向けた多様な視点を持つことが大事です」(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

「分からない」生徒をしっかりと指導してこそ、間違いを恐れずに積極的に英語を使う雰囲気生まれると考えます」(宮城県教育委員会)

「ディベートが、生徒がおのずと学習に向かうきっかけの一つとなることを期待しています」(茨城県教育委員会)

「複眼的な思考方法を身に付けるには、世界に対する『知的解像度』を高める必要があると考えます」

(東京大 長谷川寿一)

「日本は開かれた国として生きていく」という覚悟が必要であり、そうした機運を社会全体でつくり出していくことが求められています」(文部科学省 山中伸二)

「異文化コミュニケーションの基盤となるのは『高い倫理観』だと私は考えています」(立教大 松本茂)

「言葉による知的コミュニケーションの力を育て、自分の考えを述べて議論することに慣れる必要があります」(東京外語大 根岸雅史)

「社会が激変する今、教育界全体で、世の中がどう変化しているかを深く捉え直す必要があるのではないのでしょうか」(上智大 吉田研作)

「英語を学ぶこと自体を目的とせず、『プロジェクト』を遂行するためのツールとして位置付けるべきです」(長生高校 三上正弘)

「社会の状況や生徒の要望の変化に応じて、教師も変わっていくことは不可欠です」(国際情報高校 鈴木本信行)

「今、求められているのは、単なる『国際交流』ではなく、実際に行動して自分の力を試す『国際行動』です」(横浜国際高校 笠間待男)

## 編集後記

◎今の高校1年生が大学を卒業して社会に出るのは「7年後」、中学1年生であれば「10年後」です。この7年後、10年後といった将来の社会を想像すると、グローバル化は加速し、大学選びの基準も大きく変化すると思います。(藤井)

◎12月にプライベートでインドネシアに行ってきました。その時に出会った高校生数人とフェイスブックでやり取りをしています。彼らとコミュニケーションしている時が、日常生活でグローバルを感じる時間です。(田阪)

◎弊社にも外国人スタッフが複数います。円滑な業務遂行には、語学力だけでなく、他者を理解しようとする姿勢も不可欠だと日常的に感じています。さまざまな学びを得られるよう配慮された各校の取り組みに感動しました。(吉川)

◎日本の高校生にとって、日常生活で英語を使う場面は限られています。今回の取材で、授業中、楽しそうに英語を話している生徒の姿を見て、生徒にとって授業は、英語体験が出来る貴重な時間なのだと感じました。(白石)

◎「『海外経験してみたらいいよ』と、ただ勧めるのは無責任。生徒に『海外で学んでみたい』『もっと海外のことを知りたい』と思わせるのが教師のすべきこと」という取材時の言葉が印象的でした。(小林)

◎グローバル化を受け身で迎えるのではなく、自分の成長の機会として捉えることが必要になっているのかもしれませんが。より広い世界を知ることが出来る時代が訪れようとしていることを希望として受け止めて参りたいと思いました。(佐藤)

◎「How から What への導線」を意識して編集しました。厳しい状況をポジティブに捉えるためには、ブレない「What」が不可欠。しかし、そこにつながる「How」が見えてこそ、一步を踏み出す勇気生まれるのではないのでしょうか。(小泉)

VIEW21 高校版・臨時増刊号に関する  
ご意見、ご感想を  
編集部にお寄せください。

E-mail

view21\_since-1975@mail.benesse.co.jp

VIEW21 高校版 2012臨時増刊号

2012年3月8日発行

発行人 山河健二  
編集人 山崎昌樹  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
Benesse 教育研究開発センター  
印刷製本 (株)ビーヴィコーポレーション  
編集協力 (有)ベンダコ  
執筆協力 二宮良太、中丸満  
撮影協力 荒川 潤、川上一生

VIEW21編集部  
〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階  
電話 03-5320-1287

©Benesse Corporation 2012